

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 中央エリアは市民活動を停滞させないインフラ整備のためにあらゆる創意工夫を

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

7 月末に中央エリアの整備に関するオープンハウスが実施された。設計などの業務を委託する「隈研吾建築都市設計事務所」の提案資料や、その提案に基づく立体模型による全体的なエリア設計案が示され、さらに、今後の市民意見を収集するスケジュールも明らかとなるなか、(仮称) 新建物の建設イメージが市民の前に明らかになりつつある。来年 6 月に基本設計が固まるまで、今後多くの市民意見を収集する機会を経て事業をすすめていくことになるが、人口減少や少子高齢化、財源確保など限られた条件のなかでこれまで多くの市民が紡いできた市民活動や文化活動を縮小、停滞させずにさらに新たなステージに進化させていくためにどのような設計ができるのか。市と市民、設計事務所がそれぞれアイデアを出し合い、納得感を持って公共施設マネジメントを進めていくことが必要と考え、以下質問する。

1. 令和 4 年 7 月 29 日、30 日に実施された、中央エリアの整備に関するオープンハウスの参加者数や主な反応は。
2. 中央公民館のホールと二つの和室、福祉会館の市民ホールと和室ホールの過去 5 年の年度平均稼働率をそれぞれお示しください。
3. これまで中央公民館と福祉会館にあったホールの実数が減ってしまう可能性があることで、観劇や講演会、コンサートなどの大きなイベントの開催など、市民活動を続けるうえで支障が出るのではないかと心配する声があるが、それを補完できるアイデアはこれまでの市と設計事務所との話し合いで挙げられている経緯はあるか。
4. これまで収集された意見の反映や、今後の市民との意見交換の場の設定はどのように進められていくのか、今後予定されているワークショップはどのような内容・方法を想定しているか。
5. 2 月 20 日に開催された中央エリアの整備に関する市民説明会の際、設計事業者の隈研吾氏から、中央エリアの整備は「日本の公共サービスのあり方のモデルになり得ると考えている」という発言があったが、これを実現させるためにどのような方策が考えられるか、これまでにイメージの共有や方策について話し合われた経緯はあるか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 4 年 8 月 29 日 小平市議会議員 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ

受付番号【 】

25	24	23	22

— (/)